

# ALS利用者様 わたし 温泉にはいった！

(多職種連携と介護支援専門員)

ALS利用者様における問題は、身体的問題、経済的問題・介護者の負担などの社会的問題、病状への不安や自分自身の存在の意味を問う精神的問題等に分けられ、ケアにおいては、栄養管理、呼吸管理、コミュニケーション手段の確保、精神的ケア、介護者への支援が中心となっています。

これら多岐にわたる問題に対応するため、ハートフル塩山居宅介護支援センターの介護支援専門員のK氏は、ALSケアチーム（多職種連携）で対応してきました。

牧丘病院の医師をはじめ、居宅療養管理指導・口腔ケアを行う歯科衛生士・訪問看護（訪問看護師）・訪問リハビリ（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）・訪問入浴介護（看護師、介護員）・訪問介護（ホームヘルパー）・福祉用具貸与など、さまざまなサービスをきめ細やかに計画した。

それは、ALS利用者M様の思いから始まった。  
「温泉に はいりたい！」

その気持ちを受け取って、言語療法士のI氏、ホームヘルパーのH氏から「M様を温泉に連れてあげたい」

なんとか実現できないかと介護支援専門員のK氏に相談し、それぞれのサービス責任者にも協力を求めた。

それぞれのサービス責任者はわくわくした顔で皆、「やりましょう！」と快諾してくれた。

翌日その話をM様に話したところ、嬉しそうに満面の笑みを浮かべた。



車椅子で自宅から温泉旅館まで移動  
PT・ST・ヘルパー・看護師

入浴当日、梅雨明けが宣言され、気温 35℃であったが、訪問入浴サービス責任者のS氏が中心となって、訪問入浴の浴槽を露天風呂に持ち込み、もちろんお湯は露天風呂からくみ上げたお湯で入浴していただいた。

車イス移乗から入浴準備まで、理学療法士・言語聴覚士・ヘルパー・訪問看護師・介護支援専門員など10名の職員が連携して関わった。



温泉につかるM様  
訪問入浴（看護師・介護員）



ご家族様が見守る中  
露天風呂のお湯を浴槽に入れる

気持ちよさそうな顔をみていると、「やって良かったと思えた瞬間でした」と訪問入浴サービス責任者のS氏は話した。

また、ご家族からは「母の好きな温泉にいられてあげることができて良かった」と笑顔で話された。

利用者様の笑顔、ご家族の笑顔、職員の笑顔、皆それぞれ自分にしかできない役割を果たしながら、強い横のつながりでチーム一丸となって支えた光景だった。

介護支援専門員のK氏は、ALS ケアチームが連携して取り組んだ効果として、

- ・利用者様の持つ多くの課題を分担して取り組めた
- ・各職種の役割が明確になった
- ・ALS 利用者様への取り組みが積極的になった
- ・目標を持った看護・ケアが実践できるようになった
- ・利用者様の生きがいをさらに考えるようになった

今回の「温泉に はいりたい」という思いを実現するため、多職種の熱意が互いに伝わり合い、ALS 利用者様を支えるために必要な「共通の思い」が形成された場面でした。



入浴後のバイタルチェック  
訪問入浴看護師・訪問看護師・ヘルパー